

6月の短歌

渡邊麗加

① 天つ日を抱き上げるように広げたる
枝よりほのか桜咲き初む
(天平の丘にて)

② 尼寺の史跡の礎石に流れ来て
花びら淡し薄墨桜
(天平の丘にて)

③ 傷心におぼれていたき日のありて
惚けつつつらんの子らを見ており

④ 無意識に浅く座りて話している
傷心の日の客との対話

⑤ 足元灯がつと点りけり見上げいし
天井を風の過ぎゆきしかな

⑥ 空を打つ手ごたえなき日を重ね来ぬ
恋して憎んだ人すでに亡く

⑦ “あやしむな”と声かけゆきて暁闇を
すれちがいし男の声低かりき

⑧ 豚カツを揚げ終えし老が白衣のまま
客のカウンターにテレビ見はじめ

